三省堂創業140周年記念企画

百年を超える日本映画史を一望に見渡す、空前の作品データベース。

日本映画作品大事典

山根貞男 編

B5判・1,072頁(予定)・本製・布クロス貼・筒函入

発売記念特別定価41,800円(本体38,000円+税10%) 2021年12月末日まで

定価47,300円(本体43,000円+税10%)

三省堂

2021年6月中旬刊行!

ブックデザイン:鈴木一誌

編者の言葉
山根貞男

100年を超える歴史をもつ日本映画の全作品を一望できる書物にしたい。これが本事典の企画の出発時に考えた基本的な編集方針である。そこに重要な一点が加わる。単なる作品リストにするのではなく、各作品に、どんな映画かが分かるような解説を、可能なかぎり付けることである。

しかし、第2次世界大戦の終結以前、いわゆる戦前に関しては、フィルムはわずかしか残っておらず、資料も十全ではない。一方、今世紀に入ってからは、フィルムからデジタルへの媒体転換が進むなか、製作、配給、上映の形態が多様化して、映画というものの定義がきわめて難しくなってきている。この難題をどう切り抜けるか。

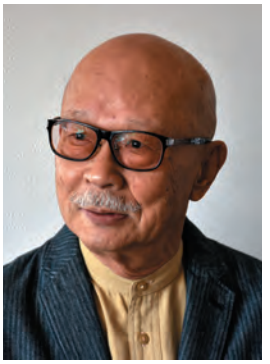
日本映画史には二つの黄金時代があった。1930年代と50年代で、映画が娯楽の王様として多大な観客を集め、質的にも量的にも繁栄を極めた。ひと口に映画といっても、その種類は多岐にわたるが、劇映画が黄金時代を担ったことは間違いなく、それは1960年代以降、現在に至るも基本的に変わらない。

そこで、本事典では、戦前と戦後、娯楽として量産されたいわゆるプログラムピクチャーを中心に、劇映画に編集の力点を置くことにした。ただし、ジャンルによる情報量の差は大きく、戦後でいえば、ピンク映画はれっきとした劇映画であるが、作品に関する情報がきわめて少ない。その結果、本事典の収録範囲は絞られ、ピンク映画、記録映画、アニメーションなどについては、一部の作品に限っての収録となり、戦前や近年の作品についても、かなり限定的に扱うこととなった。

当初の目論見どおりには進まなかったわけだが、それでも本事典は、2万本近い作品を収載する空前の規模のものとなった。

ただし、編集作業は困難の連続に見舞われた。たとえば封切日や作品の長さが資料により異なったり、作品題名が資料とフィルムで違ったり、と、二十数年の悪戦苦闘の果てに、映画ほど事典に適さないものはないのではないかとさえ思うに至り、愕然とした。力の及ぶかぎり、さまざまな文献を精査し、流布されている諸説の校訂、確定に努めたが、自ずから限界はある。この先は世の諸賢の叱正を請うのみである。

本事典は映画の文献学を志したものではなく、映画それ自体の輝きを文字として定着し、映画を愛するすべての人に届けるための基礎過程にすぎないことを強調しておきたい。監督名がインデックスになってはいるが、検索の便宜を考えての構成で、本書はあくまで作品事典である。



21世紀に入り、日本映画は多彩を極め、本数も飛躍的に増えており、新たな黄金時代の到来を予見できなくもない。そうしたなか、本事典が日本映画の豊穣な姿を未来に伝える役割を果たすことができれば、これに勝る喜びはない。

編者略歴

山根貞男（やまね さだお）　映画評論家。1939年、大阪生まれ。書評紙や映画批評誌「シネマ」69～71の編集・発行を経て映画評論家に。雑誌「キネマ旬報」に「日本映画時評」を長期連載中。また、朝日新聞の映画評を担当。『日本映画時評集成』全3巻、『マキノ雅弘 映画という祭り』など著書多数。『映画監督 深作欣二』『俳優 原田芳雄』など、共著による映画本も多い。

日本映画に関する「新たな基礎資料」を目指して編纂された作品大事典。長期にわたる執筆・編集により膨大な情報をこの一冊に集大成。

本書の特色

- 日本映画の「作品」を対象にした、規模・内容ともに空前のデータベース。
- 収録した監督数は約1,300、映画作品数は約19,500。
- 綿密な調査で従来流布されてきた情報をできる限り校訂した、信頼のおける基礎資料。
- 「日本映画の父」牧野省三の『本能寺合戦』(1908年)から2018年までを対象として、監督別に作品を収録。
- 一般劇映画を中心に、記録映画、アニメーション、実験映画なども収録。
- 監督名の五十音順配列。映画監督事典としても最大級の規模。
- ほとんどの監督項目で、監督略歴の後に、フィルモグラフィー(作品履歴)を公開年月日順に表示。
- ほとんどの作品項目に、作品情報(白黒/カラー、スクリーンサイズ、音声、長さ、スタッフ、キャストなど)や、あらすじなどの解説を付す。
- 作品項目を含まない一部の監督項目では、監督略歴の中で作品についても解説。
- 巻末には、「作品名五十音順索引」と「シリーズ五十音順索引」を収録。
- 執筆陣は、映画研究者、映画評論家、国立映画アーカイブ研究員など約50名。
- 布クロス貼りの表紙に箔押しを施した美麗な造本。筒函入り。ブックデザインは鈴木一誌。

収録監督の一部 (約1,300名の収録監督のうち一部を紹介。五十音順)

青柳信雄
青山真治
芥川光蔵
朝間義隆
安達伸生
足立正生
阿部豊
荒井晴彦
荒井良平
安藤桃子
庵野秀明
飯塚俊男
飯塚増一
家城巳代治
伊賀山正光
井口奈己
井口昇
池田千尋
池田敏春
池田富保
池広一夫
井沢雅彦
石井岳龍
石井隆
石井輝男
石井裕也
石田勝心
石田民三
石原慎太郎
和泉聖治
伊勢真一
磯村一路
井田探
伊丹十三
伊丹万作
市川崑
市川準
一倉治雄
市村泰一
井土紀州
井筒和幸
伊藤俊也
伊藤大輔
稲垣浩
犬塚稔
犬童一心
井上昭
井上梅次
井上和男
井上金太郎
井上芳夫
今井正
今泉力哉
今関あきよし
今村昌平
入江悠
岩井俊二
岩佐寿弥
岩間鶴夫
上垣保朗
牛原虚彦
牛原陽一
内川清一郎
内田吐夢
内出好吉
浦山桐郎
江崎実生
枝川弘
榎戸耕史
遠藤三郎
近江俊郎
大河原孝夫
大九明子
大島渚
大曽根辰保
太田昭和
大友克洋
大友啓史
大根仁
大庭秀雄
大林宣彦
大藤信郎
大森一樹
大森立嗣
緒方明
岡田敬
岡本明久
岡本喜八
岡本忠成
小川紳介
小泉堯史
小澤啓一
小沢茂弘
押井守
小田基義
小津安二郎
小野田嘉幹
小原宏裕
恩地日出夫
帰山教正
筧正典
風間志織
梶間俊一
勝新太郎
勝間田具治
加戸敏
加藤彰
加藤泰
加戸野五郎
金井勝
金森万象
金子修介
亀井文夫
唐十郎
川島透
川島雄三
川頭義郎
河瀬直美
河辺和夫
川本喜八郎
北野武
北村龍平
衣笠貞之助
木下恵介
木俣堯喬
金秀吉
木村恵吾
木村荘十二
木村大作
清瀬英次郎
久世光彦
工藤栄一
宮藤官九郎
熊井啓
熊谷勲
熊谷久虎
熊切和嘉
神代辰巳
倉田準二
倉田文人
倉橋良介
蔵原惟二
蔵原惟繕
栗原トーマス
栗山富夫
黒木和雄
黒澤明
黒沢清
黒沢直輔
黒田義之
小池征人
小石栄一
河野寿一
神山征二郎
五社英雄
五所平之助
小杉勇
小谷承靖
小谷ヘンリー
後藤岱山
小西通雄
小沼勝
小林悟
小林聖太郎
小林恒夫
小林正樹
小林弥六
小平裕
小森白
是枝裕和
今敏
崔洋一
斎藤耕一
斎藤光正
斎藤寅次郎
斎藤信幸
斎藤久志
斎藤武市
佐伯清
佐伯幸三
酒井欣也
酒井辰雄
坂根田鶴子
坂本浩一
阪本順治
坂元裕二
佐々木啓祐
佐々木浩久
佐々木康
貞永方久
佐藤純彌
佐藤肇
佐藤真
佐藤祐市
SABU
佐分利信
澤井信一郎
沢島忠
沢田幸弘
塩田明彦
重宗務
実相寺昭雄
篠崎誠
篠田正浩
篠原哲雄
芝山努
渋谷実
島耕二
島津昇一
島津保次郎
清水厚
清水崇
清水宏
清水浩
志村敏夫
下村兼史
白井伸明
白石和彌
白鳥信一
新海誠
新藤兼人
周防正行
須川栄三
杉井
　ギサブロー
杉江敏男
鈴木重吉
すずき
　じゅんいち
鈴木志郎康
鈴木清順
鈴木卓爾
鈴木則文
鈴木英夫
春原政久
諏訪敦彦
瀬尾光世
瀬川昌治
関川秀雄
関本郁夫
瀬々敬久
想田和弘
相米慎二
曽根中生
園子温
高木孝一
高橋治
高橋伴明
高畑勲
高林陽一
高嶺剛
高村武次
鷹森立一
滝沢英輔
滝田洋二郎
瀧本智行
田口哲
武田一成
武智鉄二
田坂勝彦
田坂具隆
田中絹代
田中重雄
田中徳三
田中登
タナダユキ
谷口千吉
田畠恒男
田村孟
千葉泰樹
塚本晋也
辻吉朗
土本典昭
筒井武文
堤幸彦
円谷英二
坪島孝
鶴橋康夫
勅使河原宏
手塚治虫
手塚眞
出目昌伸
寺山修司
土井裕泰
土居通芳
冨樫森
時枝俊江
富田克也
富野由悠季
豊島圭介
豊田四郎
豊田利晃
鳥居元宏
内藤瑛亮
内藤誠
中江裕司
中川信夫
仲木繁夫
長崎俊一
中島貞夫
中島哲也
中田秀夫
中原俊
中平康
中村登
那須博之
並木鏡太郎
成田裕介
成沢昌茂
成島出
成瀬巳喜男
西河克己
西川美和
仁科熊彦
西村潔
西村昭五郎
布川徹郎
根岸吉太郎
野口博志
野田真吉
野田幸男
野淵昶
野村孝
野村浩将
野村芳亭
野村芳太郎
萩庭貞明
萩原遼
橋浦方人
橋口亮輔
橋本一
長谷川和彦
長谷川安人
長谷部安春
羽仁進
羽田澄子
濱口竜介
林功
林海象
原一男
原恵一
原研吉
原田隆司
原田眞人
番匠義彰
坂東玉三郎
東陽一
樋口源一郎
樋口真嗣
久松静児
日高繁明
左幸子
平山秀幸
廣木隆一
深川栄洋
深作欣二
深田金之助
深田晃司
深田修造
福田純
福田晴一
藤井克彦
藤浦敦
藤田敏八
伏水修
二川文太郎
船橋淳
冬島泰三
古川卓巳
古澤憲吾
降旗康男
細田守
細野辰興
穂積利昌
堀池清
堀内真直
堀川弘通
本多猪四郎
前田哲
前田陽一
曲谷守平
牧口雄二
牧野省三
マキノ雅弘
政岡憲三
舛田利雄
増村保造
松井良彦
松尾昭典
松岡錠司
松川八洲雄
松田定次
松田優作
松林宗恵
松村昌治
松本俊夫
松本人志
松山善三
真利子哲也
丸根賛太郎
丸山誠治
万田邦敏
三池崇史
三木孝浩
水谷俊之
瑞穂春海
三隅研次
溝口健二
三谷幸喜
満友敬司
三村晴彦
宮城まり子
三宅唱
三宅隆太
宮崎駿
向井寛
村上龍
村川透
村田実
村野鐵太郎
村山新治
村山三男
毛利正樹
望月六郎
持永只仁
本木克英
本広克行
森一生
森達也
森川英太朗
森崎東
森田芳光
森谷司郎
森永健次郎
矢口史靖
矢崎仁司
安田公義
安彦良和
柳沢寿男
柳町光男
藪下泰司
山上伊太郎
山川直人
山際永三
山口和彦
山口清一郎
山崎貴
山崎徳次郎
山下耕作
山下敦弘
山田達雄
山田典吾
山田洋次
大和屋竺
山中貞雄
山根成之
山内鉄也
山村浩二
山村聰
山本嘉次郎
山本薩夫
山本政志
山本迪夫
湯浅憲明
湯浅政明
行定勲
弓削太郎
湯山邦彦
横浜聡子
横山博人
横山隆一
吉田喜重
吉田恵輔
吉田大八
吉村公三郎
吉村廉
李相日
利重剛
若杉光夫
若林栄二郎
若松孝二
若松節朗
和田誠
和田嘉訓
渡辺邦男
渡辺邦彦
渡邊孝好
渡辺武
渡辺文樹
渡邊祐介

監督名をインデックスとして五十音順に配列し、公開年月日順に詳細な作品解説を付す。

実物大 本文紙面見本（組体裁・内容は編集途上のもので、実際と一部異なります）

黒澤明

くろさわ・あきら｜1910－98（明治43－平成10）

東京・大井町生まれ。1927年に京華中学を卒業後、画家を志し、日本プロレタリア美術家同盟に参加する中、雑誌のカットや漫画を描く。36年、P.C.L.に入社。同社合併後の東宝映画も含め、助監督として主に山本嘉次郎に就く。『馬』(山本嘉次郎、41)ではB班監督を務め評価され、以後、山本組のB班のみ担当する。43年『姿三四郎』で監督デビュー。45年『一番美しく』(44)に出演した矢口陽子と結婚。『虎の尾を踏む男達』撮影中に終戦を迎え、同作はGHQの検閲を通過せず、公開は52年となる。第1次東宝争議の際は組合の企画による『明日を創る人々』(46)を山本嘉次郎、関川秀雄と共同監督する。48年、山本嘉次郎、本木荘二郎が結成した映画芸術協会に参加。49年より活動の場を広げ、大映、新東宝、松竹で撮る中、『羅生門』(50)がベネチア国際映画祭金獅子賞およびアメリカ・アカデミー賞特別賞を受賞し、世界的に注目される。『生きる』(52)で東宝に戻り、『七人の侍』(54)がヒットする。59年、東宝との提携で黒澤プロを設立。『用心棒』(61)『椿三十郎』(62)と連続ヒットを飛ばす。66年、黒澤プロは東宝から完全に独立し、日米合作の企画『暴走機関車』を発表するが、製作中止となる。68年、日米合作『トラ・トラ・トラ』を撮り始めるが、撮影中断を繰り返した末、69年降板する。69年、木下恵介、市川崑、小林正樹と四騎の会を結成し、カラー第1作『どですかでん』(70)を撮る。71年、自殺未遂。監督復帰作『デルス・ウザーラ』(75)がアメリカ・アカデミー賞外国映画賞を、『影武者』(80)がカンヌ国際映画祭パルムドールを受賞する。82年にはカンヌ国際映画祭で世界10大監督の一人に選ばれる。85年、映画関係者初の文化勲章を受賞。その躍動的な作品群は世界中の映画ファンを魅了し、スティーブン・スピルバーグ、ジョージ・ルーカス、アッバス・キアロスタミら海外の監督からも敬愛される。また、助監督時代より脚本家として活躍し、『青春の気流』(伏水修、42)『銀嶺の果て』(谷口千吉、47)『殺陣師段平』(マキノ正博、50)『決闘鍵屋の辻』(森一生、52)など数多くの脚本を手がける。著書に『蝦蟇の油 自伝のようなもの』『全集黒澤明』などがある。長男はプロデューサー黒澤久雄、長女は衣裳デザイナー黒澤和子。

姿三四郎

1943年3月25日 白黒 SD 97分【製】東宝【配】映画配給社【原】富田常雄【脚】黒澤明【撮】三村明【美】戸塚正夫【音】鈴木静一【出】藤田進、大河内傳次郎、轟夕起子、月形龍之介、志村喬、花井蘭子、小杉義男 ❋明治15年、若き姿三四郎(藤田)は柔術を志して上京するが、新時代の柔道を唱える矢野正五郎(大河内)の技に感銘を受け、弟子入りする。寺の道場で修行を積み強くなるが、慢心を矢野に批判され、夜中に池に飛び込み、朝、蓮の開花を見て悟りを開く。警視庁武術大会で柔術家村井半助(志村)と対決することになった三四郎は、親しくなった小夜(轟)が村井の娘と知って悩むが、試合に勝つ。さらに、半助の弟子檜垣源之助(月形)を烈風の野原で破り、旅に出る。純真な青年が武術の修練を通じて精神的にも成長する姿を、師弟愛、淡い恋、相次ぐ闘いの中に描く。娯楽映画に飢えた戦時下の観客に受けてヒットすると共に、静と動の転変を駆使した演出力が高く評価された。原作は同名小説。

一番美しく

1944年4月13日 白黒 SD 85分【製】東宝【配】映画配給社【脚】黒澤明【撮】小原譲治【美】安部輝明【出】入江たか子、矢口陽子、谷間小百合、志村喬、清川荘司、菅井一郎 ❋太平洋戦争末期、勤労挺身隊として動員された若い女性たちが、寮生活をしながら軍需工場でレンズ製造に携わる。増産強調運動の中、疲労の蓄積や病人の続出で感情的なトラブルが起こるが、寮母の水島徳子(入江)に見守られ、鼓笛の練習やバレーボールで英気を養い、組長の渡辺ツル(矢口)を中心に全員が仕事に励む。43年に始まった14歳以上25歳未満の女性の勤労動員に取材した国策映画。国家目的と集団と個の葛藤が精神主義で克服されていく過程を描く。

続 姿三四郎

1945年5月3日 白黒 SD 82分【製】東宝【配】映画配給社【原】富田常雄【脚】黒澤明【撮】伊藤武夫【美】久保一雄【音】鈴木静一【出】藤田進、大河内傳次郎、月形龍之介、河野秋武、轟夕起子、石田鉱 ❋明治20年、柔道家姿三四郎(藤田)が、横浜で若い車夫に暴力を振るうアメリカ人水兵を懲らしめた後、矢野正五郎(大河内)の修道館に戻り、小夜(轟)と再会する。かつて彼に敗れた檜垣源之助(月形)の弟2人、鉄心(月形)と源三郎(河野)が挑戦状を届ける。三四郎は道場の自分の名札を外し、アメリカ人ボクサーとの試合に勝った後、雪山で鉄心と源三郎を倒す。数々の闘いの中、三四郎の純真さと共に、源之助の人間味や弟2人の妄執、三四郎を慕う若い車夫の一途さが浮かび上がる。月形が2役。『姿三四郎』(黒澤明、43)の続編。

明日を創る人々

1946年5月2日 ➞山本嘉次郎

わが青春に悔なし

1946年10月29日 白黒 SD 111分【製】東宝【脚】久板栄二郎【撮】中井朝一【美】北川恵司【音】服部正【出】原節子、藤田進、大河内傳次郎、河野秋武、杉村春子、三好栄子、高堂国典 ❋京大事件を題材に、弾圧に抗する戦時下の人々の不屈さを描く民主主義啓蒙映画。昭和8年、軍国主義の嵐の中、京都帝国大学の八木原教授(大河内)が大学を追われ、娘の幸枝(原)と親しい野毛(藤田)ら学生も検挙される。野毛の転向を知って幻滅した幸枝は、京都を去り東京で自活する。昭和16年、幸枝は、父の教え子である検事の糸川(河野)から、野毛が中国問題の論客として活躍していることを聞き、再会する。2人は心を通わせ同棲するが、野毛がスパイ容疑で検挙され、幸枝も警察で連日尋問される中、太平洋戦争が始まる。幸枝は釈放されるが、野毛は獄死する。失意から立ち直った幸枝は、野毛の故郷へ向かい、村人からスパイの親として迫害されている野毛の老いた父母(高堂、杉村)と共に農作業に励む。敗戦で八木原は大学に復帰し、幸枝は農村で生きる決心をする。原が好演する幸枝の表情の微妙な変容を鋭敏な映像感覚で捉え、自我を貫く新しい女性像を提示する。同じ久板の脚本による『大曽根家の朝』(木下恵介、46)と共に、戦後映画の出発を告げる作品として評価された。

素晴らしき日曜日

1947年6月25日 白黒 SD 109分【製】東宝【脚】植草圭之助【撮】中井朝一【美】久保一雄【音】服部正【出】沼崎勲、中北千枝子、中村是好、清水将夫、渡辺篤、菅井一郎 ❋雄造(沼崎)と昌子(中北)が、日曜日にデートをして東京を歩き回る。結婚後を考えモデルハウスや賃貸アパートを見て自分たちの貧しさに直面し、飛び入りした草野球では失態で金を払い、雄造の戦友のキャバレーを訪ねて門前払いを食う。動物園を経て、雨の中「未完成交響曲」を聴きに日比谷公会堂へ行き、雄造はダフ屋と争い殴られる。雄造の下宿で、彼は昌子の体を求めて拒まれる。2人は月明かりの焼け跡で喫茶店開業の夢を語った後、無人の野外音楽堂で「未完成交響曲」コンサートを空想して、雄造がタクトを振り、昌子が客席に拍手を求めると、曲が流れ始める。貧しい男女の心情のうねりをリアリズムで描く。その後、画面から観客に向かって拍手を促す昌子の姿により青春の夢想を象徴する。

酔いどれ天使

1948年4月26日 白黒 SD 98分【製】東宝【脚】植草圭之助、黒澤明【撮】伊藤武夫【美】松山崇【音】早坂文雄【出】志村喬、三船敏郎、山本礼三郎、中北千枝子、木暮実千代、進藤英太郎、久我美子、千石規子、 ❋敗戦後の都会の底辺にうごめく人々の姿を活写した、黒澤、三船出会いの作品。闇市近くの酒飲みの開業医真田(志村)が、手の銃創の治療に来たやくざ松永(三船)に肺病の疑いを告げ、後日、松永が持つレントゲン写真から重症と分かる。真田の粗末な医院の前の湿地はごみ捨て場になり、メタンガスが噴き出る泥沼と化し、ある夜、「人殺しの唄」を弾くギターの音が流れる。弾くのは松永の兄貴分で出所した岡田(山本)で、子分たちや松永の情婦奈々江(木暮)を支配している。看護師代わりの美代(中北)は、かつて自分を苛んだ岡田の帰還におびえる。喀血した松永は、親分に見捨てられたことを知り、奈々江のアパートの廊下で白ペンキに塗れつつ岡田と闘い刺殺した後、絶命する。真田は、肺病が完治したセーラー服の少女(久我)と仲良く歩き出す。敗戦後の混沌が泥沼に象徴され、その生命力を信じる真田と、そこでのたうつ松永の交流を温かく描く。虚無的で感受性の強い松永がアプレゲールの鮮烈な典型として注目され、映画がヒットすると共に、三船は一躍スターの座に着いた。

静かなる決闘

1949年3月13日 白黒 SD 95分【製】大映(東京)【原】菊田一夫【脚】黒澤明、谷口千吉【撮】相坂操一【美】今井高一【音】伊福部昭【出】三船敏郎、三條美紀、志村喬、千石規子、植村謙二郎、中北千枝子 ❋1944年、野戦病院の軍医藤崎恭二(三船)が、重傷の上等兵中田(植村)を手術中、梅毒に感

巻末には「作品名五十音順索引」と「シリーズ五十音順索引」を収録。

実物大 索引紙面見本（組体裁・内容は編集途上のものでは、実際と一部異なります）

作品名五十音順索引

あ

嗚呼!おんなたち 猥歌……276
〔人間魚雷〕あゝ回天特別攻撃隊……187
噫河野巡査……347
あゝ君が愛……660
あゝ玉杯に花うけて▶小沢得二……189
嗚呼空閑少佐……376
あゝ軍歌……757
噫軍神杉本中佐 死の中隊▶白井戦太郎……439
あゝ決戦航空隊……896
あゝ声なき友……114
噫小西巡査……131
ああ女難……453
あーす……256
あゝ青春……397
あゝ青春に涙あり……451
あゝそれなのに……537
〔懐しのメロディー〕あゝそれなのに……549
〔続〕あゝ独身……293
あゝ同期の桜……586
あゝ洞爺丸……184
あゝ特別攻撃隊……110
噫特務艦関東……828
噫友田伍長……31
噫新高……420
あゝ野麦峠……921
あゝ野麦峠 新緑篇……921
噫薄情……349
ああ爆弾……172
嗚呼!!花の応援団……484
嗚呼!!花の応援団 男涙の親衛隊……484
愛情の価値……377
愛情の系譜……312
愛情の決算……397
愛情の決闘……379
愛情の波紋……182
愛情の都……452
愛情一筋道……489
愛情部隊……381
愛情不動……367
愛情物語……219
アイ・ジョージ物語 太陽の子……342
愛人……73
愛人の誓ひ……519
アイスクリーム……499
愛すべき罪……344
愛すべく……456
愛する(上村力、61)……228
愛する(熊井啓、97)……271
愛するあした……345
愛するとき、愛されるとき……480
愛する者の道……729
愛すればこそ 花売り娘……939
愛すればこそ 愛すればこそ……918
愛すればこそ とびこんだ花嫁……113
愛染かつら(野村浩将、38)……650
愛染かつら(木村恵吾、54)……259
愛染かつら(中村登、62)……601
愛染かつら 完結篇……651
愛染香……20
愛染格子……257
愛染地獄 第一篇……263
愛染地獄 第二篇……263
愛染地獄 第三篇……263
愛染草……521
愛に濡れたわたし……214
愛に甦る日……828
愛の嵐の中で……316
愛の一家……469
愛のお荷物……235
愛の凱歌……655
愛の海峡……522
愛の果実……227
愛の化石……175
愛の渇き……282
愛のきずな……555
愛の楔……420
愛の言霊……226
愛の言霊 世界の果てまで……226
愛のコリーダ……151
愛の砂丘……1
愛の讃歌……903
愛の山河……298
愛の新世界……493
愛の星座……582
愛の世界 山猫とみの話……1
愛の先駆者……599
愛の宣言……960
愛の闘ひ……424
愛の翼 お母さん行ってきます……61
愛の手紙は幾歳月……569
愛の扉▶中川紫郎……578
愛のなぎさ……639
愛のぬくもり……342
愛の濃淡……121
愛の白昼夢……202
愛の一つ家……381
愛の秘密▶徳永フランク……565
愛の風景……512
愛よ星と共に……19
愛より愛へ……425
藍より青く……868
アイ・ラブ・ニッポン……562
アイ・ラヴ・ピース……149
アイ・ラヴ・フレンズ……149
アイ・ラヴ・ユー……149
愛恋行進曲……656
愛恋二人行脚……429
愛を誓いし君なれば……533
愛を積むひと……12
アインシュタインガール……146
アインシュタインは黄昏の向こうからやってくる▶安藤紘平……25
AVALON……190
アウターマン……232
アウト&アウト……242
アウトレイジ……245
アウトレイジ ビヨンド……245
アウトレイジ 最終章……245
喘ぐ白鳥……519
青いうた のど自慢 青春編……226
青い海原……332
青い果実……2
青いくちづけ……110
青い車……180
青い獣 ひそかな愉しみ(あおいけだものひそかなたのしみ)……508
青い山脈(今井正、49)……112
青い山脈(松林宗恵、57)……801
青い山脈(西河克己、63)……621
青い山脈(河崎義祐、75)……232
青い山脈 '88……346
青い真珠……753

シリーズ五十音順索引

あ

あゝ軍艦旗
フランキー ブーチャンのあゝ軍艦旗……470
続 あゝ軍艦旗 女護ケ島奮戦記……470
フランキー ブーチャンの殴り込み落下傘部隊……470

嗚呼!!花の応援団
嗚呼!!花の応援団……484
嗚呼!!花の応援団 役者やのォー……484
嗚呼!!花の応援団 男涙の親衛隊……484

愛獣
愛獣 悪の華……215
愛獣 襲る!……293
愛獣 赤い唇……215

あいつ
不敵なあいつ……629
不死身なあいつ……358
命しらずのあいつ……797
爆弾男といわれるあいつ……673

愛と誠
愛と誠……913
続 愛と誠……913
愛と誠 完結篇……619

相棒 劇場版
相棒 劇場版 絶体絶命! 42.195km 東京ビッグシティマラソン……65
相棒 劇場版II 警視庁占拠! 特命係の一番長い夜……65
相棒 劇場版III 巨大密室!特命係 絶海の孤島へ……65
相棒 劇場版IV 首都クライシス 人質

網走番外地
網走番外地……51
続 網走番外地……51
網走番外地 望郷篇……51
網走番外地 北海篇……52
網走番外地 荒野の対決……52
網走番外地 南国の対決……52
網走番外地 大雪原の対決……52
網走番外地 決斗零下30度……52
網走番外地 悪への挑戦……52
網走番外地 吹雪の斗争……52
新 網走番外地……781
新 網走番外地 流人岬の血斗……740
新 網走番外地 さいはての流れ者……364
新 網走番外地 大森林の決斗……740
新 網走番外地 吹雪のはぐれ狼……741
新 網走番外地 嵐呼ぶ知床岬……741
新 網走番外地 吹雪の大脱走……741
新 網走番外地 嵐呼ぶダンプ仁義……741

暴れん坊
東京の暴れん坊……357
でかんしょ風来坊……357
夢がいっぱい暴れん坊……796
銀座の次郎長……69
銀座の次郎長 天下の一大事……69

あぶない刑事
あぶない刑事……674
またまたあぶない刑事……78
もっともあぶない刑事……851
あぶない刑事リターンズ……851
あぶない刑事 フォーエヴァー THE MOVIE……610
まだまだあぶない刑事……574
喧嘩犬……853
ごろつき犬……852
暴れ犬……864
鉄砲犬……852
続・鉄砲犬……853
野良犬……110
早射ち犬……852
勝負犬……110

いも侍
いも侍・蟹右衛門……807
いも侍・抜打ち御免……807
殴り込み侍……807

色暦大奥秘話
色暦 大奥秘話……680
続・色暦大奥秘話 淫の舞……680
色暦大奥秘話 刺青百人競べ……342
新・色暦大奥秘話 やわ肌献上……680
新・色暦大奥秘話 花吹雪おんな事始め……342
新 色暦大奥秘話 愛戯お仕込処……724
大奥秘話 晴姿姫ごと絵巻……680

う

宇宙戦艦ヤマト
宇宙戦艦 ヤマト……788
さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち……788
ヤマトよ永遠に……788
宇宙戦艦ヤマト 完結編……211

海猿
海猿……671
LIMIT OF LOVE 海猿……671
THE LAST MESSAGE 海猿……671
護る影……628
右門捕物帖 謎の八十八夜……608
右門捕物帖 伊豆の旅日記……608
右門捕物帖 片眼狼……579
右門捕物帖 帯とけ仏法……880
右門捕物帖 緋鹿の子異変……579
右門捕物帖 謎の血文字……23
右門捕物帖 からくり街道……608
右門捕物帖 妖鬼屋敷……857
右門捕物帖 まぼろし変化……811
右門捕物帖 献上博多人形……437
むッつり右門捕物帖 鬼面屋敷……915
右門捕物帖 恐怖の十三夜……437

右門捕物帖_大友
右門捕物帖 片眼の狼……399
右門捕物帖 地獄の風車……399
右門捕物帖 南蛮鮫……186
右門捕物帖 まぼろし燈篭の女……268
右門捕物帖 卍蜘蛛……305
右門捕物帖 紅蜥蜴……804
右門捕物帖 蛇の目傘の女……305

え

エヴァンゲリヲン新劇場版
エヴァンゲリヲン新劇場版:序……26
エヴァンゲリヲン新劇場版:破……26
エヴァンゲリヲン新劇場版:Q……26

駅前
駅前旅館……572
喜劇 駅前団地……692
喜劇 駅前弁当……692
喜劇 駅前温泉……692
喜劇 駅前飯店……694
喜劇 駅前茶釜……694

畏怖すべき労作

松浦寿輝

今や一世紀を超える日本映画の歴史は、わが国の近・現代における社会や政治の有為転変と密接な関わりを持つ、豊饒きわまりない文化遺産の形成史である。しかし、文学や美術などが特権的な才能の持ち主による高度な表現と見なされ、敬意をもって遇されてきたのに対し、時代の好尚を追って量産される安直な大衆娯楽にすぎないという扱いを受ける時期が長かった映画の場合、文化遺産としての基礎的かつ総合的なデータベースは、これまでまったくの未整備の状態にあったと言わざるをえない。

このたび、山根貞男・編『日本映画作品大事典』という畏怖すべき大著の出現によって、この大きな空白が一挙に埋められたことを慶びたい。映像表現の技法の精錬と進化の過程の解析、個々の作品に投影された民衆意識の深層の分析、諸外国の映画との、また映画以外の諸ジャンルとの交渉や影響関係の解明など、日本映画をめぐる研究は今後ますます盛んになってゆくだろうが、その基盤となるべき情報や知識が、この千ページを超える大部の一冊に圧縮され集大成されているさまは、壮観と言うほかはない。日本映画とは何だったのか――この巨大な問いに正面から向かい合おうとするすべての人々にとって、このモニュメンタルな労作は今後、必携の書となってゆくだろう。

（詩人・小説家・批評家。東京大学名誉教授）

日本映画の再発見

佐藤浩市

自分たちの国の映画、とりわけ昔の映画を近しいものに感じるまでには、ある程度の経験の蓄積が必要なのではないでしょうか。自分自身を振り返っても、そう思います。けれども、一定の年齢に達し、経験を積み重ねた上で、日本映画に向き合う時、かつて見た映画であっても、まったく異なるものに感じることがあります。量産されたプログラムピクチャーの中にも、時代を経て見直した時、とても素敵な作品があることに気づきます。

『日本映画作品大事典』は、そんな日本映画の歴史に接する機会、日本映画を再発見するチャンスを与えてくれる書物だと思います。

どの映画監督の作品に出演したかったかと問われれば内田吐夢と答えますが、この事典で調べてみたいのは、監督ごとの作品というより、時代と作品との関わりです。それぞれの時代でこの国がどのように揺れていたのか、それがその時代に作られた映画作品にどのように影響しているのか、そんなことをこの事典で考えてみたいと思います。そして、この事典を贈りたいのは、後進の演者たち、とくに30代半ばから40代にかけての、一定のキャリアを積んだ演者たちです。仕事の痛みや苦味といったものを分かってきた世代の演者たちに、この事典で日本映画を見直してもらいたいと願います。〔談〕

（俳優）

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14　電話：03-3230-9411（編集）・9412（営業）
https://www.sanseido.co.jp/

注文書

日本映画作品大事典 ISBN978-4-385-15903-4
発売記念特別定価 41,800円（本体38,000円＋税10％）
2021年12月末日まで
定価 47,300円（本体43,000円＋税10％） **2021年6月中旬刊行**

冊

ご住所・お勤め先　〒

お名前　　お電話

貴店名・帖合先

三省堂

＊ご記入いただいた個人情報は、ご注文の確認のために使用し、その目的以外には利用いたしません。